

Crematory

火葬場整備を考える

建設候補地の検討 議論も大詰め段階

第4回火葬場建設候補地検討委員会が10月11日に開催されました。

委員会では、これまでの議論で浮かび上がった何カ所かの候補エリアと市民から推薦があったエリア、これに火葬場整備に十分な面積が確保できる市有地を加えた15カ所を候補エリアとして位置付け、それぞれを評価しました。

続いて11月26日に開催した第5回委員会では、12月中に市長へ提出する予定の「火葬場の建設候補地に関する検討結果報告書」の内容を協議しました。委員会では、具体的な候補地は

選定せず、候補地の選定に必要なとなる評価軸の設定と抽出された各エリアに対する意見集約をもって検討結果とすることを確認しました。また、候補地の選定は、市民意見を十分理解した上で別に定める評価基準に基づき、市が選定するよう要望することとしました。

第6回委員会は12月17日に開催される予定で、これまでの経過を含め、候補地の選定に関する検討結果を市長へ説明するとともに、報告書も提出する予定です。

最終的には、市の建設候補地選定会議を経て、平成31年3

月末までに市長が候補地を選定する予定です。

※火葬場は、建設予定地の地元同意を得られた上で決定します。



火葬場整備に関する詳しい情報は、市ホームページをご覧ください。

御前崎市火葬場

検索

照 会 環 境 課 ☎0537-1162

Atomic

暮らしと原子力

4市対協が
福島第1原子力発電所と
被災地の復興状況を視察

浜岡原子力発電所安全等対策協議会(以下4市対協)の代表メンバーが11月27日と28日、福島第1原子力発電所と被災地の復興状況を視察しました。4市対協での福島第1原子力発電所の視察は平成25年8月に続き2回目。

東日本大震災を起因とする福島第1原子力発電所事故からすでに7年8カ月が経過。避難指示区域の大部分は立ち入り制限が解除され、帰還困難区域でも除染工事が始まるなど、避難区域の復興再生が着実に進んでいる状況を目の当たりにしました。

視察では、福島県川内村の総務課長を務めていた井出寿一さんに被災地を案内していただき、復興状況について説明を受けました。「Jヴィレッジ」や「ここなら笑店街」(榎葉町)、「さくらモール」(富岡町)などの復興拠点施設や被災地

の街並みを見学しました。福島第1原子力発電所は、廃炉に向けた作業が着実に進んでいました。96㊦のエリアで一般作業服での作業が可能になるなど労働環境はかなり改善されていきました。現在、燃料取り出しに向けて準備が進められていますが、計画では30〜40年先に廃炉が完了するとのことでした。

4市対協では、被災地の復興への取り組みが一層加速していくことを念願するとともに、中部電力(株)に対し安全性向上に向けた不断の努力を積み重ねるよう求めていきます。

視察では、福島県川内村の総務課長を務めていた井出寿一さんに被災地を案内していただき、復興状況について説明を受けました。「Jヴィレッジ」や「ここなら笑店街」(榎葉町)、「さくらモール」(富岡町)などの復興拠点施設や被災地



▲ロボット遠隔技術を視察